

協短私立 図書館情報担当者研修会開催

「短大図書館の新たな出発」テーマに

利用活性化等で研究発表



佐久間勝彦・日短協 図書館情報委員長

日本私立短期大学協会図書館情報委員会(委員長 佐久間勝彦・千葉経済大学短期大学部理事 学長)は、平成二十三年度図書館情報担当者研修会を九月八・九の二日間、仙台市の仙台ガーデンパレスで開催した。テーマは「短期大学図書館の新たな出発。佐久間委員長はあいさつの中で「図書館の安全性をいかに図るか、金子みすゞのまなざしでいかに復興を遂げるか、図書館を知的・感性を研ぎすめ場にいかに変えていくか、短大の存在をいかに訴えていくか、この四つの観点からテーマを掲げた」と述べた。ここでは記念講演と研究発表の概要を報告する。

記念講演 「みんなちがって、みんなのうれしいまなざし」

矢崎節夫・金子みすゞ記念館館長

記念講演は「みんなちがって、みんなのうれしいまなざし」と題して、金子みすゞのうれしいまなざし」との演題で、矢崎節夫・金子みすゞ記念館館長が講演した。

東日本大震災後、ACジャパンのイメージ広告として、金子みすゞさん「このままでしょうか」という詩が流れた。それを聞いたときに、私たちが度々地震、想定外と言った、大切な「あなた」がた。千年に一度なら人類が人間たという根源的な歴史を考えれば、何十

子の気持ちに沿うことが私たちである。私たちができたなら、その子はどんなに幸せだろうか。地球をメートルの大きさで例えれば、マグマの上で〇・五ミリの岩盤が載っているだけ。酸素で、子どもはお父さんお母さんの宝物だった。今(空)はミミキらい母さんの宝物だった。今(薄さ)はミミキらい母さんの宝物だった。今(岩盤)が動くのは当たり前。そこをどのように居るのだろうか。言葉を最

度を中心に(担当 木内公一委員長、齋藤誠一委員、坂本恭子委員、松尾昇台委員) 研究分析の対象としたのは、平成二十一年度・二十二年度第三者評価報告書である。この中で、図書館に関する評価は、主に評価領域Ⅲ(教育の実施体制)に入り、評価されているのは特色ある活動や企画であった。

期大学、「卒業時に貸出されたシラバスルームの設置など、評価領域Ⅶ(社会活動)では町内会(社会活動)では町内会等と連携した新聞・ウェブサイトの制作への協力などが評価された。また、平成二十一年度評価委員会を対象に行われた「短期大学自己評価に関する研究」評価委員会に対する聞き取り調査の結果に、図書館評価のボックサー(ブックハンディンク)が挙げられ、図書館の本を手にする学生が本屋に行くという取り組みが報告された。この結果、参加学生には評判がよく、選定本の利用率が高まった。問題点としては、短大生の参加が少なく、リピーターが多い、選定本に偏りがある等であった。このほか各自の大学図書館の「読書感想文コンテスト」、千葉敬愛短期大学の「君にすめ一冊の本(学生に読んでほしい本の紹介)などが報告された。その他の事例として、読書会、企画展、コーナー設置、ブックフェア、読書ラリー・読書マラソンなどが挙げられた。活性化のヒントとしては、授業との連携、学生との協働・参加、ポイント制の導入等

が挙げられた。最後に二多くの熟語・固有名詞が宮委員が、学生に朝日新聞消された、学生は「本を聞の天声人語の読めない読まない」ではなく、理解できない部分を消「本が読めない」の去してもらったところ、ないかと指摘した。

研究発表1 「短期大学基準協会による第三者評価報告書の比較検討」

研究発表では、図書館情報委員会による第三者評価報告書の比較検討(平成二十年から二十二年)が中心に(担当 木内公一委員長ほか)

「短期大学基準協会による第三者評価報告書の比較検討」は、図書館情報委員会による第三者評価報告書の比較検討(平成二十年から二十二年)が中心に(担当 木内公一委員長ほか)

「利用活性化をめざす図書館サービスのあり方に関する研究」(担当 二宮嘉須彦委員長ほか)

「短期大学図書館におけるICT活用についての研究」(研究担当 浮谷秀一委員長ほか)



仙台市の仙台ガーデンパレスを会場に実施された図書館情報担当者研修会

「短期大学基準協会による第三者評価報告書の比較検討」は、図書館情報委員会による第三者評価報告書の比較検討(平成二十年から二十二年)が中心に(担当 木内公一委員長ほか)

「利用活性化をめざす図書館サービスのあり方に関する研究」(担当 二宮嘉須彦委員長ほか)

「短期大学図書館におけるICT活用についての研究」(研究担当 浮谷秀一委員長ほか)